

診療科再編に向けた救急医療提供体制について

令和6年4月22日

第2回診療科検討部会では、「診療科再編に向けた動きを加速する必要がある」といった意見が複数の出席者から出ました。また、その前提として「A病院における重要な施設（救急・NICU等）の改修や、経営形態の決定を早期に実施する必要がある」という意見が出ました

第2回の診療科検討部会の振り返り（一部抜粋）

■ 滋賀医科大学 田中顧問

- A病院に医師が集まれるだけの施設ができて初めて診療科再編が進むと思う。ハードの整備がなければ診療科再編は進まない。特に大切なのは、重症患者を診る診療科は長浜赤十字に多くある事実であり、見逃してはならない。周産期やNICUなどがA病院に移すための施設ができて初めてまとまって移ることができる。意見を言うのであれば、施設の改修を早くしなければ、再編は進まない。
- 私の考えは、A病院に医師が集まれるだけの施設ができて、初めて再編が進むのではないかと考える。特に今は長浜日赤に重要な施設（救急・NICU）が集中している。その施設改修を前倒ししないと再編は進まないと考えている。

診療科再編に向けた動きを加速するため、施設（救急・NICU等）改修や経営形態決定を、より早いタイミングで実施すべき

■ 滋賀医科大学 中川顧問

- 私としてはスピードアップしていただきたいと願うばかり。急性期病院の場所が大戌亥町に決まっているのであれば、循環器内科を急性期病院に集約するために、大戌亥町に救急を充実させる場所が必要だと考える。そのための工事が必要であれば、その話を早く始めていただきたい。診療科の役割の話があるが、費用のかかる建物について、経営形態が決まらないと議論できないのであれば、いの一番に議論し、方針を決めるべきは経営形態である。
- 診療科再編は経営形態が決まらない限り、具体化することが難しい。

■ 再編による救急医療提供体制のイメージ

